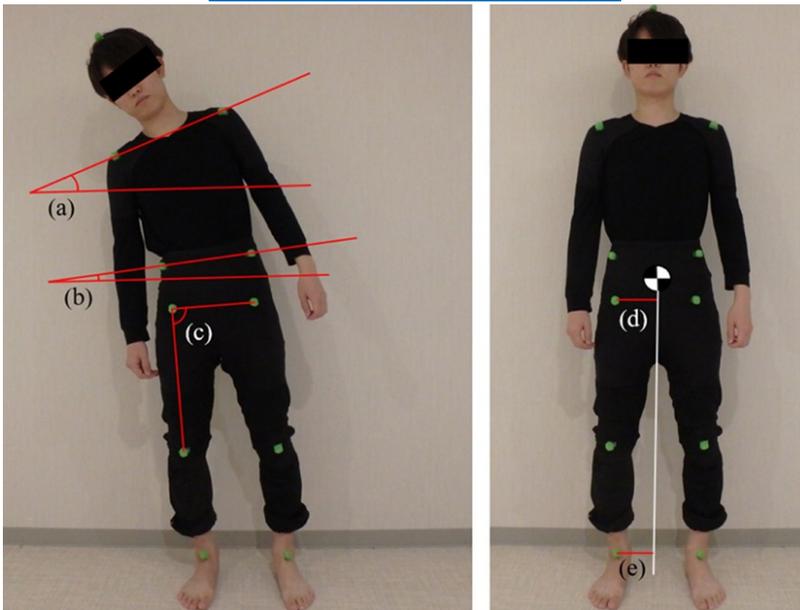




Influence of tactile and verbal guidance on lateral weight-shifting in double-leg standing after total hip arthroplasty

Toru Shiwa^{a,b}, Koichiro Makino^{a,b}, Masaya Anan^{c,*}

両脚立位重心側方移動



対象

人工股関節全置換術(THA)
患者20人
術式：後方アプローチ

測定項目

運動学的パラメータ

- a: 体幹傾斜角度
- b: 骨盤
- c: 股関節内転角度
- d: 股関節レバーアーム長
- e: 足関節レバーアーム長

筋活動

中殿筋
大腿筋膜張筋の筋活動

通常条件とPTの指導条件(体幹側屈を抑制)にて各パラメータを比較

結果

指導条件では通常条件と比較して

体幹側屈角度 ↓

股関節レバーアーム ↑

術側方向への側屈群

体幹側屈角度 ↓

非術側方向への側屈群

変化なし

通常条件において認めた相関関係

中殿筋の活動量

→体幹側屈角度

大腿筋膜張筋の活動量

→重心移動量(足関節レバーアーム長)

→股関節内転角度

結論

理学療法士の動作指導は、
THA患者の両脚立位重心側方移動に
影響を及ぼし、
側屈方向によってその影響が
異なる可能性がある。